

## オキシ銅（有機銅）の水質モニタリングデータと当面のリスク管理措置 （水産動植物の被害防止に係る登録保留基準関係）（案）

オキシ銅（有機銅）については、水産動植物被害防止に係る農薬登録保留基準値案（以下、「水産基準値案」という。）が $1.8 \mu\text{g/L}$ 、水産PECが $0.33 \mu\text{g/L}$ （非水田PEC<sub>Tier1</sub>）と、水産基準値案と水産PECが近接していたことから、「水産動植物の被害防止に係る農薬登録保留基準値案と環境中予測濃度（水産PEC）が近接している場合の対応について」（平成23年10月11日中央環境審議会土壌農薬部会農薬小委員会（第27回）了承）に基づき、水質モニタリング調査データを確認したところ、1.のとおり水産基準値案を超過したデータが見られたことから当面のリスク管理措置を2.のとおりとする。

### 1 オキシ銅（有機銅）の水質モニタリングデータとリスク評価

#### （1）水道統計における原水の水質調査（別紙）

平成20～22年度に行われた水道統計における原水の水質調査において、延べ1,154地点で測定され、10点で検出され、そのうち1点（平成22年、高知県）で水産基準値案を上回っていた。（ $3.2 \mu\text{g/L}$ ）

該当採水場では月1回、5～9月に調査を実施しており8月に検出された以外は定量限界（ $0.4 \mu\text{g/L}$ ）以下となっている。

#### （2）公共用水域水質測定（別紙）

平成18～23年度に環境省が実施した公共用水域水質測定において3地点で各1検体検出され、全て水産基準値案を上回っていた。（ $2\sim 14 \mu\text{g/L}$ ）

各採水地点とも年1回、8～10月に調査を実施しており、検出された年以外の年は定量限界以下となっている。（定量限界 $1\sim 4 \mu\text{g/L}$ ）

### 2 当面のリスク管理措置

1.のモニタリングデータより、水産基準値案を上回る検出がみられていることから、オキシ銅（有機銅）の使用が多い都道府県において、農薬残留対策総合調査等による水質モニタリングの実施について検討することとする。

## 水道統計における原水中のオキシ銅（有機銅）濃度の調査結果

都道府県名	年度	水源名	検出値 ( $\mu\text{g/L}$ )
神奈川県	H20	相模川水系（道志川）	0.4
神奈川県	H20	相模川水系（相模湖）	0.4
神奈川県	H20	相模川水系（馬入川）	0.5
滋賀県	H21	淀川水系（琵琶湖）	0.4
滋賀県	H21	淀川水系（琵琶湖）	0.4
大阪府	H21	淀川水系淀川	0.4
新潟県	H22	信濃川水系洩海川	0.4
大阪府	H22	淀川水系淀川	0.4
高知県	H22	鏡川、仁淀川	3.2
佐賀県	H22	塩田川水系岩屋川内川	0.1

出典：水道統計

## 公共用水域水質測定におけるオキシ銅（有機銅）濃度の調査結果

都道府県名	年度	水源名	検出値 ( $\mu\text{g/L}$ )
大阪府	H18	西除川	14
三重県	H20	天白川	5
奈良県	H21	佐波川水系	2

出典：公共用水域水質測定結果